



法名の スズメ。



花まつり

平成27年3月26日(木) 西音寺

3月26日(木)西入部・西音寺におきまして、「花まつり」を開催しました。今年はおドラゴン76さんをお招きし、親鸞聖人の絵を描いていただきました。2メートル×2メートルの大きなキャンパスに、一から作り上げる様子は圧巻でした。子供から大人まで、目の前で作り上げる絵に釘付けでした。また今年には白い象を引き、賑やかなうちに釈迦様のお誕生をお祝いしました。



若婦人会総会

平成27年4月7日(火) 真正寺



若婦人会は、平成27年4月7日(火)真正寺での総会で仏華のお勉強をしました。講師は、宗像組宝蓮寺住職、青木一乗先生。

「菊を使うのは、長持ちするのはもちろん、【聞く】お聴聞にも通じるからですよ」とお話しいただきながらのデモンストレーションは分かりやすく大変好評でした。お仏壇のお荘厳は知っているようで知らないことも多く、学びの多い総会となりました。※授業の様子をビデオに撮っていたのであります。ご覧になられた方は若婦人会までお声かけください。

時代に翻弄された青春。



お念仏とともに

～日高照雄さんに聞く～

朝鮮(現韓国)の京城(現ソウル)で生まれた私は、4歳で母を亡くしました。父は仕事の関係で別居していましたので、私は祖父母と二人の叔父・叔母に育てられました。間もなく終戦を迎え、京城から福岡へと引揚げてきたのです。

奇しくも終戦の日、私は盲腸にかかり京城の病院に入院していましたが、玉音放送を聞くこともなく、終戦を知ったのはずっと後のことです。その後、叔父が貨物船を手配してくれまして、祖父と叔母二人、従兄弟と私の四人で母と祖

～紫藤山 徳常寺～ 福岡市城南区七隈

早良組の昔の様子を垣間見るシリーズ「さわら今昔物語」。今回は城南区七隈『紫藤山 徳常寺』の昔をご紹介します。

徳常寺の発展は七隈の発展と共にありました。五十年前の七隈は、春は一面菜の花畑で、小さな川を挟んで東西に五十戸程の家がある農村でありました。地下鉄の走る現在からは想像もできないことです。

さわら 今昔物語



現在の本堂



昭和初期の徳常寺

母の遺骨を背負い、なんとか福岡まで帰ってきました。

先祖代々のお寺

福岡に帰ってきてすぐに、東入部の徳勝寺まで母と祖母の遺骨を納骨しに行きました。初めてお参りする徳勝寺に日高家のお墓。

この時、祖父が話してくれた言葉は今でも忘れません。「ここが日高家先祖代々のお寺だ。よく覚えておきなさい」この言葉が私とお寺、そして仏教との最初の出会いでした。

ある宗教との出会い

福岡で暮らし始めてしばらくして、父が事故で亡くなりました。そんな時に縁あって新聞社に入社することになったのです。18歳の時です。その新聞社には60歳の定年まで勤めました。24歳で母と同じ肺結核にかかり、治療のためしばらく職を離れなければなりません。当時、肺結核は誰もががかり得



る病気だったのです。昭和30年、右肺上葉の切除手術を受け、おかげさまで完治しました。

この入院治療中に、とある宗教団体の教会長さんが足繁く通って来られました。病院の屋上で何度もその宗教の教えを聞き、次第に耳を傾けるようになりました。

退院した後にその教会長さんと、本部がある施設まで何度もお礼参りをしました。今思えば、情も入り断りづらかったんですね。しかしその宗教とは自然と足が遠のきました。

浄土真宗へ

定年を迎えた頃、ある本を読んでいたら、浄土真宗



の中央仏教学院の生徒募集の記事を見つけた。この時祖父が話してくれたあの言葉を思い出したので。ここが日高家先祖代々のお寺だ。よく覚えておきなさい」この言葉の裏には、日高家は先祖代々浄土真宗のお法を頂いてきた歴史があるんだぞ、と私に教えてくれたような気がしました。この言葉に導かれるように、私は願書を提出し、3年間の通信教育を受けました。浄土真宗のことはよく知らなかったのですが、学ぶにつれて、「この教えは私の事だ」と聞かせてもらいうようになりました。

ことになりました。私の先祖は、代々浄土真宗の門徒で、熱心にお仏壇のお荘厳、お勤めをする後ろ姿を見て育ったのですが、まさか私が僧侶になるとは思ってもみませんでした。

しかし、お導きがあったんですね。「阿弥陀様のみ教えに出遇いなさい、阿弥陀様の願いの中に生きていなさい。せつかく頂いたあなたの命を空しく終わらせないように」と。私の先人たちが導いてくださったご縁だといたいておられます。

私の人生に起こったあらゆることも、すべてはこうしてお念仏申す身にさせていただいたご縁だったと、今はただ感謝申すばかりであります。

編集後記

東入部・徳勝寺ご門徒の日高さんにご自身の半生をお話いただきました。時代に翻弄され、決して平坦とは言えないその半生。しかし後にお念仏と出遇われた日高さんのお話を伺っていると、坂村真民さんの「めぐりあいのふしぎにてをあわせよう」というお言葉を思い出しました。この私にもお手回しがあったのです。先手先手の親のご恩になんとも頭が下がります。 称名

一問一答 教えて浄土真宗 法名のススメ

お葬式のお位牌や法名軸に書いてある「法名」。そんなイメージからか、「法名は死んだ人がいたたくもの」という印象があります。今回はそんな「法名」についての一問一答です。先生はこれまでに引き続き、徳勝寺 角ご住職にお話を聞きました。

Q そもそも法名とは何ですか

A 角住職 浄土真宗の門徒としての名告りです。門徒としての自覚の名告りと言っても良いでしょう。ご本山で帰敬式を受け、おかみそりをしていただき法名を拝受するのです。

Q 亡くなった後につける名前ではないのですか

A 角住職 本来は、亡くなって門徒になるのではないのですから、おのずとその答えは明らかになりません。でもそう言うもの一般的なには死後につける名前と思われているのは事実です。その一つの要因として、折角、ご本山から法名を拝受されても、その法名は生前に目の目を見ることはなく、お仏壇の引き出しの中におさめられ、葬儀の時に「確かあったはずだ」と遺族があたふたしながら見つける場面によく出くわします。つまり法名を頂いても、その法名が普段の生活となんら関わりを持ち合わせてないのが現実なのです。頂いた法名がはたらきになっていくか、ただの紙に書いた死後に使う名刺になっている

Q のかと言うことではないでしょうか

A 角住職 門徒の中には年賀状や手紙に「積〇〇」と、頂いた法名を使われている方もおられますが、ほんの一部ですね。私は有り難いなあとながめているんですが……。法名をお仏壇に入れるんじゃないか、目に付く所に額に入れてかざるとか、集まって法名のお披露目会なども早良組でやってもいいんじゃないかと思ったりします。

Q ところで、必ず「釋」という字がついていますが、どのような意味でしょうか

A 角住職 「釋」というのは「釈」の旧字ですが、釈尊（お釈迦さま）の弟子、つまり仏教徒であることを意味します。私たち本願寺派では敬式を受式することにより授与され、「法名 釋〇〇」となります。

Q まず法名の本来の意味合いを聞いていくことが大切ですね

A 角住職 そうですね。法名は亡くなった方がいたたく名前ではなく、お念仏をよるこぶ、この私の名告りです。出来れば生前にいただくご縁をもちたいものです。そして先ほども申しましたが法名が生前に活躍できる世界をもつと模索する必要があります。法名をいただくよるこぶ「法名をいただくよるこぶ」をもつとひろめたいですね。

Q 「法名」と「戒名」は違うのですか

A 角住職 法名も戒名もお釈迦さまの弟子という意味では同じです。しかし、浄土真宗では戒名は用いません。それにはもちろん理由があります。仏教の教えは大きく二つに分けることができます。一つは自らの力をたのみとし、煩惱をなくし戒律を守って仏と成る自力の教え。もう一つは煩惱で仕上がっている私のために立ち上がって下さった阿弥陀さまのお働きによって仏にさせていただく教えです。先に述べた自力の教えによって仏に成るお方につけられる名前が「戒名」。つまり戒律を守って人生を歩んでいく名前です。

私たち浄土真宗は阿弥陀さまのお救いの中で仏にさせていたただく教えであり、戒律を守る教えではありません。阿弥陀さまのお救い（法）に生かされ、お念仏申す人



この夏、児童念仏参拝団で京都に参拝し、帰敬式を受けた子ども達。

帰敬式について

帰敬式は京都の本願寺で受式することができます。早良組では平成28～29年に京都への団体参拝を計画しています。この機会に、国宝であり世界遺産にも登録された西本願寺で法名をいただかれてはどうでしょうか。詳しくはご所属の寺院か本山へお問い合わせ下さい。



© reineg Fotolia.com